

令和元年11月5日

総合情報基盤センター
 所長 下川 俊彦 殿

2020（令和2）年度 総合情報基盤センター研究開発申請書

私は、2020（令和2）年度総合情報基盤センター研究開発における研究開発者として、下記のとおり申請いたします。

記

| 研究開発代表者 | | |
|-----------|---------------------------|-----|
| 氏名 | 所属 | 職名 |
| 秋山 優 印 | 地域共創学部 | 副学長 |
| 内線番号/携帯番号 | 電子メールアドレス | |
| 5039 | akiyama@ip.kyusan-u.ac.jp | |

| 研究開発分担者または研究開発協力者 | | | | |
|-------------------|-------|------------|-----------|------------------------|
| No. | 氏名 | 所属 | 職名または学籍番号 | 研究開発者区分 (○をつけて下さい。) |
| 1 | 松本 孝徳 | 入試部 | 係長 | 分担者・協力者 |
| 2 | 太田 克司 | 総合情報基盤センター | 職員 | 分担者・協力者 |
| 3 | | | | 分担者・協力者 |
| 4 | | | | 分担者・協力者 |
| 5 | | | | 分担者・協力者 |

| | | | | |
|------------------------------------|---|-----------|------|------|
| 研究開発期間 (実際の研究開発期間 をご記入ください。) | 令和2年 4月 1日 ~ 令和3年 3月 31日 | | | |
| 研究開発課題名 | 主体性評価等に関するルーブリック評価支援ツールの研究 | | | |
| 使用計算機名 (○をつけて下さい。) | Windowsサーバ・Linuxサーバ・Windowsパソコン・Linuxパソコン・Macintoshパソコン その他() | | | |
| 研究開発経費 | 申請予算総額 | 申請予算総額の内訳 | | |
| | 1,519千円 | 消耗品費 | 一般旅費 | 諸会費 |
| | | 千円 | 67千円 | 15千円 |
| | | 購読費 | 通信費 | 諸手数料 |
| 5千円 | 千円 | 1,298千円 | | |

研究開発課題について

1. 研究開発の背景（動機）と目標

（1）研究開発の背景（動機）

近年、学力の3要素や主体性に代表される非認知能力などの評価が必要な機会が増えてきており、ルーブリックは評価する対象や内容に合わせて、評価基準と評価の項目数を調整することができるため、上述したような場面ではとても効果的である。しかし、ルーブリックを支援するソフトウェア [日本語] は存在しておらず、早急に開発する必要が出てきている。

（2）研究開発の目的（解決すべき課題）

ルーブリック評価は、その効果は実証されているが、その評価に関連する資料の作成や評価後の集計に時間や労力がかかる。特に、多人数の評価を複数人で行う場合はより時間や労力がかかる。本研究は、ルーブリック評価にかかる時間や労力を削減することを目的とし、その効果を実証することで、本学におけるルーブリック評価の導入を促進できる。

（3）研究開発の目標

ルーブリック評価にかかる時間や労力を30%削減することを目標とする。現在、ルーブリック評価は育成型入試の育成プログラムで導入されている。すでに実施したプログラムのデータを活用し、作業にかかる時間や労力を開発後のツールを使った場合と比較検証する。

（4）研究開発の方法

育成型入試の育成プログラムで導入されているルーブリック評価をモデルとして、ルーブリック支援ツールを開発する。現在、すべてExcel及びWordで行っている作業（登録者の設定から評価の確定、帳票の出力、分析）と、ツールを使った作業を比較検証し、その有効性を実証する。

2. 研究開発の成果、有用性

（1）研究開発の成果

本研究によって、ルーブリック評価にかかる時間や労力の削減が実証できる。それによって、あらゆる場面でのルーブリック評価導入を促進できる。

（2）研究開発成果の本学における有用性

昨今の日本の企業は、筆記試験 [一問一答のような] では測定できない非認知スキルやコンピテンシーを重要視する傾向がある。本研究で取り扱うルーブリック評価はそのためのツールとして非常に適している。そのルーブリック評価が本学で広まることで、学生の適切な能力評価ができ、多くの企業への就職につながる可能性がある。

3. 研究開発の新規性または必要性

本研究は、ルーブリック評価をICTで支援することに、その新規性がある。ルーブリック評価自体にICTは直接関係ないが、ルーブリック評価にかかる時間や労力が、その導入を阻害している可能性がある。導入を促進するためにはその阻害要因を取り除くことが必要であり、また評価の精度を上げていくためには、評価情報の蓄積・分析が必要であり、ICTを使うことでそれが容易になる。

4. 研究開発の計画

(1) 研究開発体制（役割分担等）

秋山 優（代表者）

○育成プログラムの管理、ルーブリック評価の調整・確認、評価内容の検証・分析
アドミッションオフィサー（評価者）の育成・指導・管理

松本 孝徳（分担者）

○ルーブリック評価支援ツールの設計・開発、ルーブリック評価に関するデータ管理、
育成プログラムの運営、研究開発協力者への依頼

太田 克司（協力者）

○ルーブリック評価支援ツールの設計・開発に関するアドバイス、学内ネットワーク関係の設定

(2) 主な行動計画

| いつまでに | 実施内容 |
|----------|---|
| 令和2年 5月 | 育成プログラムのデータの整理およびルーブリック評価作業工程の確認・ルーブリック評価支援ツールの設計 |
| 令和2年 6月 | ルーブリック評価支援ツールの動作確認 [過去のデータでのシミュレーション] |
| 令和2年 9月 | 令和2年度育成プログラム（令和3年度育成型入試）において使用し、作業時間や労力を検証 |
| 令和2年 12月 | 過去の作業時間や労力との比較検証 （アドミッションオフィサーからの定性的な情報収集） |
| 令和2年 3月 | 研究結果のまとめ |

5. 研究開発の成果物に関するICTの活用

(1) ICTの具体的な活用方法・活用手順

- ・授業や面接におけるルーブリックの利用計画
- ・ルーブリックの作成
- ・ルーブリックの設定 [ルーブリック評価支援ツール]
- ・評価の実施 [ルーブリック評価支援ツール]
- ・評価結果のフィードバック資料作成 [ルーブリック評価支援ツール]
- ・評価結果の分析 [ルーブリック評価支援ツール]

(2) 募集内容テーマとの関連性

- ・ルーブリック評価